

「対話と学びあい」で すべての労働者の大幅賃上げ・底上げを!!

25広島県春闘共闘結成総会



▲結成総会の最後に25春闘勝利へ団結ガンバロウ!

12月6日、広島県春闘共闘結成総会が広島ロッドビルとオンライン併用で開催され、58人が参加しました。

『対話と学びあい』そして行動を!

春闘共闘代表委員の神部泰広県労連議長は開会あいさつで、「全ての労働者の大幅賃上げと底上げ、長時間労働や人手不足を解消し、やりがいを持って働き続けられる職場や地域の実現、公共と社会保障の再生や拡充などの課題の実現など25国民春闘勝利に向けたたたかいがいよいよスタートする。核兵器の廃絶や戦争をやめさせること、そして憲法が生きる社会の実現に向けて、全ての組合員が学びあい、対話し、行動する中で要求が大きくなり前進する25春闘にしていこう。」と訴えました。

5人が討論に参加しました。広島県労連パリン連絡会の田頭奈美江さんは「徳島県での最賃引上げの取り組みのように最賃の大幅引上げと全国一律制へ向け25春闘を元気に闘いたい」と発言しました。県労連女性センターの橋本敏子部長は「2月23日に『未来をつくる私たちの1歩。ジェンダー平等と核兵器廃絶へ向けて平和の港へ出向しよう』をスローガンに『はたらく女性の広島県集会』を開催する。男性も多く参加して成功させたい。」と述べました。

全労連事務局次長の寺園通江さんが『対話と学びあい』で労働組合のパージョンアップと25春闘勝利に向けてと題して記念講演を行いました。

職場のなかま5名が25春闘決意表明!

広島県春闘共闘の植永光則事務局長が「全国一律最賃制への法改正」「ジェンダー平等」推進、「非正規春闘」を掲げ、職場地域から大きなうねりを起こし、25春闘に勝利しよう。」と方針および運営綱領・規約を提起。

先輩の声掛けなどの協力や工夫ですすめている。」と発言しました。全教広島の中本雄一さんは「教職員定数を改善し教職員の負担を減らし、つめこみではなくゆとりある教育へ切りかえていくよう声を上げていきたい。」と力を込めました。

すべての議案が拍手で承認され、神部泰代表委員の「団結がんばろう」で春闘での闘いの決意を皆で固めました。

『はたらくあなたの声』アンケートにご協力を

「はたらく女性の広島県集会実行委員会」アンケート実施中! あなたの切実な声を国や行政に届け、改善を図るための大切なアンケートです。アンケート結果は厳重に管理いたしますので、安心してご協力をお願いいたします。

最低賃金全国一律法改正へ向け
広島県出身国会議員訪問!

『全国一律最低賃金制と今すぐ1500円以上』の実現へ向け、12月10日・12日の3日間、広島県内出身の国会議員13名の事務所へ、要請行動を行いました。

国会の開催中のため各事務所の秘書の方が対応して頂きました。どの政界議員の事務所も昨年と対応が違いました。早期に時給1500円

争議支援総行動に50人

すべての労働争議の勝利を守る争議支援行動が12月3日広島合同庁舎周辺で取り組まれ、原告や支援者など50人が参加しました。

出発式で広島県労連神部泰議長は「(後河内麻季先生の)権利を守る会」の後河内直美さんは「学校を相手にした裁判を準備している。キャリアの差はあっても身分の差はあってはならない。娘の麻季が悩んでいた原因究明のため頑張りたい」と発言。福祉保育労広島支部オハナ分会長の澄川伯江さんは「今も職場にはゆとりもなく人間関係の問題もある。保

円以上と全国一律制を実現させるチャンスです。

机上の空論のまま

原発再稼働

島根原発避難計画

2024.12.15 ちろ



▲デモ行進で早期解決をアピール

争議支援を訴える後河内さん

広島県労連の煙崎久美子さんの宣伝カーからのリードで「リストラ・不当解雇を許すな」「いのちと暮らしを守る政治を実現しよう」などを皆でコールし、市民に訴えました。

争議支援を訴える後河内さん

広島県労連の煙崎久美子さんの宣伝カーからのリードで「リストラ・不当解雇を許すな」「いのちと暮らしを守る政治を実現しよう」などを皆でコールし、市民に訴えました。

争議支援を訴える後河内さん

広島県労連の煙崎久美子さんの宣伝カーからのリードで「リストラ・不当解雇を許すな」「いのちと暮らしを守る政治を実現しよう」などを皆でコールし、市民に訴えました。

争議支援を訴える後河内さん

広島県労連の煙崎久美子さんの宣伝カーからのリードで「リストラ・不当解雇を許すな」「いのちと暮らしを守る政治を実現しよう」などを皆でコールし、市民に訴えました。

争議支援を訴える後河内さん

広島県労連の煙崎久美子さんの宣伝カーからのリードで「リストラ・不当解雇を許すな」「いのちと暮らしを守る政治を実現しよう」などを皆でコールし、市民に訴えました。

争議支援を訴える後河内さん

広島県労連の煙崎久美子さんの宣伝カーからのリードで「リストラ・不当解雇を許すな」「いのちと暮らしを守る政治を実現しよう」などを皆でコールし、市民に訴えました。

争議支援を訴える後河内さん

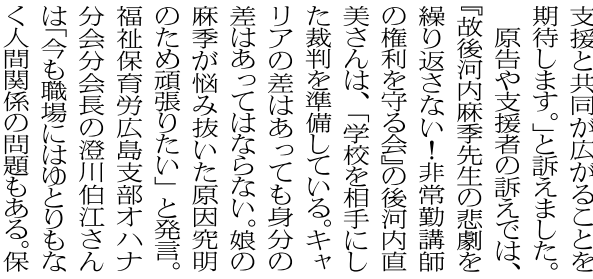
広島県労連の煙崎久美子さんの宣伝カーからのリードで「リストラ・不当解雇を許すな」「いのちと暮らしを守る政治を実現しよう」などを皆でコールし、市民に訴えました。

争議支援を訴える後河内さん

広島県労連の煙崎久美子さんの宣伝カーからのリードで「リストラ・不当解雇を許すな」「いのちと暮らしを守る政治を実現しよう」などを皆でコールし、市民に訴えました。

争議支援を訴える後河内さん

広島県労連の煙崎久美子さんの宣伝カーからのリードで「リストラ・不当解雇を許すな」「いのちと暮らしを守る政治を実現しよう」などを皆でコールし、市民に訴えました。



▲日本維新の会空本事務所への要請

ジェンダー平等 & 均等待遇川柳募集

2025 年は広島市で「パート・派遣など非正規ではたらくな全国交流会」(2025 年6月7・8日)が開催されます。これを機に「ジェンダー平等」や「非正規待遇」の問題を考えていただきたく「ジェンダー平等 & 均等待遇川柳」を募集します。詳細はQRから。どしどしご応募ください。

ジェンダー平等 & 均等待遇川柳募集

2025 年は広島市で「パート・派遣など非正規ではたらくな全国交流会」(2025 年6月7・8日)が開催されます。これを機に「ジェンダー平等」や「非正規待遇」の問題を考えていただきたく「ジェンダー平等 & 均等待遇川柳」を募集します。詳細はQRから。どしどしご応募ください。

ジェンダー平等 & 均等待遇川柳募集

2025 年は広島市で「パート・派遣など非正規ではたらくな全国交流会」(2025 年6月7・8日)が開催されます。これを機に「ジェンダー平等」や「非正規待遇」の問題を考えていただきたく「ジェンダー平等 & 均等待遇川柳」を募集します。詳細はQRから。どしどしご応募ください。

ジェンダー平等 & 均等待遇川柳募集

2025 年は広島市で「パート・派遣など非正規ではたらくな全国交流会」(2025 年6月7・8日)が開催されます。これを機に「ジェンダー平等」や「非正規待遇」の問題を考えていただきたく「ジェンダー平等 & 均等待遇川柳」を募集します。詳細はQRから。どしどしご応募ください。

ジェンダー平等 & 均等待遇川柳募集

2025 年は広島市で「パート・派遣など非正規ではたらくな全国交流会」(2025 年6月7・8日)が開催されます。これを機に「ジェンダー平等」や「非正規待遇」の問題を考えていただきたく「ジェンダー平等 & 均等待遇川柳」を募集します。詳細はQRから。どしどしご応募ください。

ジェンダー平等 & 均等待遇川柳募集

2025 年は広島市で「パート・派遣など非正規ではたらくな全国交流会」(2025 年6月7・8日)が開催されます。これを機に「ジェンダー平等」や「非正規待遇」の問題を考えていただきたく「ジェンダー平等 & 均等待遇川柳」を募集します。詳細はQRから。どしどしご応募ください。

ジェンダー平等 & 均等待遇川柳募集

2025 年は広島市で「パート・派遣など非正規ではたらくな全国交流会」(2025 年6月7・8日)が開催されます。これを機に「ジェンダー平等」や「非正規待遇」の問題を考えていただきたく「ジェンダー平等 & 均等待遇川柳」を募集します。詳細はQRから。どしどしご応募ください。

ジェンダー平等 & 均等待遇川柳募集

2025 年は広島市で「パート・派遣など非正規ではたらくな全国交流会」(2025 年6月7・8日)が開催されます。これを機に「ジェンダー平等」や「非正規待遇」の問題を考えていただきたく「ジェンダー平等 & 均等待遇川柳」を募集します。詳細はQRから。どしどしご応募ください。

ジェンダー平等 & 均等待遇川柳募集

2025 年は広島市で「パート・派遣など非正規ではたらくな全国交流会」(2025 年6月7・8日)が開催されます。これを機に「ジェンダー平等」や「非正規待遇」の問題を考えていただきたく「ジェンダー平等 & 均等待遇川柳」を募集します。詳細はQRから。どしどしご応募ください。

推進力

10年以上前だが、宅配便のサービスとして「スタッフが車を降りてから玄関口まで走って荷物を届けます」とPRするCMがあった。当時は、荷物を運ぶドライバーの負担は無視され、それが消費者から評価されると考えたのだろう。同じく「飲食店でスタッフが注文を受けるときに片膝をついて接客します」と情報番組内で紹介されていた。業界の厳しい競争の中で、特徴を持たせようという事なんだらうが飲食店での食事にすぎないのに、客が変な勘違いを起こしそうなサービスだ。この接客姿勢は一定の広がりを見せ、いまも続いているところがある。昔から日本が極端に消費者視点に偏った文化が形成されていると思ってきた。商品を買えば、誰でも消費者になり得るので、そこで優越感を得たいとか優越感に浸らせて商品を買ってもらおうという魂胆。このために、実は職業だと同じ労働者の立場にありながら、客になったとたんに従業員に対して過剰に上下関係を感じる風土が強まっていたのではないか。しかし、労働者不足となりクレーム対応などになり手が減ってきて、従業員を守らなければとカススタマーハラスメント対策が始まった。必要ではあるが、消費者目線優位の社会が生んだ歪みである以上、そこを正さなければ対症療法に過ぎない。一人ひとりが、消費者以外の視点(労働者、有権者)での活動機会を自覚的に増やすこと、相手と対等な立場で契約を結ぼうと努力することに向かってほしいと願っている。(K)

推進力

10年以上前だが、宅配便のサービスとして「スタッフが車を降りてから玄関口まで走って荷物を届けます」とPRするCMがあった。当時は、荷物を運ぶドライバーの負担は無視され、それが消費者から評価されると考えたのだろう。同じく「飲食店でスタッフが注文を受けるときに片膝をついて接客します」と情報番組内で紹介されていた。業界の厳しい競争の中で、特徴を持たせようという事なんだらうが飲食店での食事にすぎないのに、客が変な勘違いを起こしそうなサービスだ。この接客姿勢は一定の広がりを見せ、いまも続いているところがある。昔から日本が極端に消費者視点に偏った文化が形成されていると思ってきた。商品を買えば、誰でも消費者になり得るので、そこで優越感を得たいとか優越感に浸らせて商品を買ってもらおうという魂胆。このために、実は職業だと同じ労働者の立場にありながら、客になったとたんに従業員に対して過剰に上下関係を感じる風土が強まっていたのではないか。しかし、労働者不足となりクレーム対応などになり手が減ってきて、従業員を守らなければとカススタマーハラスメント対策が始まった。必要ではあるが、消費者目線優位の社会が生んだ歪みである以上、そこを正さなければ対症療法に過ぎない。一人ひとりが、消費者以外の視点(労働者、有権者)での活動機会を自覚的に増やすこと、相手と対等な立場で契約を結ぼうと努力することに向かってほしいと願っている。(K)

推進力

10年以上前だが、宅配便のサービスとして「スタッフが車を降りてから玄関口まで走って荷物を届けます」とPRするCMがあった。当時は、荷物を運ぶドライバーの負担は無視され、それが消費者から評価されると考えたのだろう。同じく「飲食店でスタッフが注文を受けるときに片膝をついて接客します」と情報番組内で紹介されていた。業界の厳しい競争の中で、特徴を持たせようという事なんだらうが飲食店での食事にすぎないのに、客が変な勘違いを起こしそうなサービスだ。この接客姿勢は一定の広がりを見せ、いまも続いているところがある。昔から日本が極端に消費者視点に偏った文化が形成されていると思ってきた。商品を買えば、誰でも消費者になり得るので、そこで優越感を得たいとか優越感に浸らせて商品を買ってもらおうという魂胆。このために、実は職業だと同じ労働者の立場にありながら、客になったとたんに従業員に対して過剰に上下関係を感じる風土が強まっていたのではないか。しかし、労働者不足となりクレーム対応などになり手が減ってきて、従業員を守らなければとカススタマーハラスメント対策が始まった。必要ではあるが、消費者目線優位の社会が生んだ歪みである以上、そこを正さなければ対症療法に過ぎない。一人ひとりが、消費者以外の視点(労働者、有権者)での活動機会を自覚的に増やすこと、相手と対等な立場で契約を結ぼうと努力することに向かってほしいと願っている。(K)

推進力

10年以上前だが、宅配便のサービスとして「スタッフが車を降りてから玄関口まで走って荷物を届けます」とPRするCMがあった。当時は、荷物を運ぶドライバーの負担は無視され、それが消費者から評価されると考えたのだろう。同じく「飲食店でスタッフが注文を受けるときに片膝をついて接客します」と情報番組内で紹介されていた。業界の厳しい競争の中で、特徴を持たせようという事なんだらうが飲食店での食事にすぎないのに、客が変な勘違いを起こしそうなサービスだ。この接客姿勢は一定の広がりを見せ、いまも続いているところがある。昔から日本が極端に消費者視点に偏った文化が形成されていると思ってきた。商品を買えば、誰でも消費者になり得るので、そこで優越感を得たいとか優越感に浸らせて商品を買ってもらおうという魂胆。このために、実は職業だと同じ労働者の立場にありながら、客になったとたんに従業員に対して過剰に上下関係を感じる風土が強まっていたのではないか。しかし、労働者不足となりクレーム対応などになり手が減ってきて、従業員を守らなければとカススタマーハラスメント対策が始まった。必要ではあるが、消費者目線優位の社会が生んだ歪みである以上、そこを正さなければ対症療法に過ぎない。一人ひとりが、消費者以外の視点(労働者、有権者)での活動機会を自覚的に増やすこと、相手と対等な立場で契約を結ぼうと努力することに向かってほしいと願っている。(K)

推進力

10年以上前だが、宅配便のサービスとして「スタッフが車を降りてから玄関口まで走って荷物を届けます」とPRするCMがあった。当時は、荷物を運ぶドライバーの負担は無視され、それが消費者から評価されると考えたのだろう。同じく「飲食店でスタッフが注文を受けるときに片膝をついて接客します」と情報番組内で紹介されていた。業界の厳しい競争の中で、特徴を持たせようという事なんだらうが飲食店での食事にすぎないのに、客が変な勘違いを起こしそうなサービスだ。この接客姿勢は一定の広がりを見せ、いまも続いているところがある。昔から日本が極端に消費者視点に偏った文化が形成されていると思ってきた。商品を買えば、誰でも消費者になり得るので、そこで優越感を得たいとか優越感に浸らせて商品を買ってもらおうという魂胆。このために、実は職業だと同じ労働者の立場にありながら、客になったとたんに従業員に対して過剰に上下関係を感じる風土が強まっていたのではないか。しかし、労働者不足となりクレーム対応などになり手が減ってきて、従業員を守らなければとカススタマーハラスメント対策が始まった。必要ではあるが、消費者目線優位の社会が生んだ歪みである以上、そこを正さなければ対症療法に過ぎない。一人ひとりが、消費者以外の視点(労働者、有権者)での活動機会を自覚的に増やすこと、相手と対等な立場で契約を結ぼうと努力することに向かってほしいと願っている。(K)

推進力

10年以上前だが、宅配便のサービスとして「スタッフが車を降りてから玄関口まで走って荷物を届けます」とPRするCMがあった。当時は、荷物を運ぶドライバーの負担は無視され、それが消費者から評価されると考えたのだろう。同じく「飲食店でスタッフが注文を受けるときに片膝をついて接客します」と情報番組内で紹介されていた。業界の厳しい競争の中で、特徴を持たせようという事なんだらうが飲食店での食事にすぎないのに、客が変な勘違いを起こしそうなサービスだ。この接客姿勢は一定の広がりを見せ、いまも続いているところがある。昔から日本が極端に消費者視点に偏った文化が形成されていると思ってきた。商品を買えば、誰でも消費者になり得るので、そこで優越感を得たいとか優越感に浸らせて商品を買ってもらおうという魂胆。このために、実は職業だと同じ労働者の立場にありながら、客になったとたんに従業員に対して過剰に上下関係を感じる風土が強まっていたのではないか。しかし、労働者不足となりクレーム対応などになり手が減ってきて、従業員を守らなければとカススタマーハラスメント対策が始まった。必要ではあるが、消費者目線優位の社会が生んだ歪みである以上、そこを正さなければ対症療法に過ぎない。一人ひとりが、消費者以外の視点(労働者、有権者)での活動機会を自覚的に増やすこと、相手と対等な立場で契約を結ぼうと努力することに向かってほしいと願っている。(K)

推進力

10年以上前だが、宅配便のサービスとして「スタッフが車を降りてから玄関口まで走って荷物を届けます」とPRするCMがあった。当時は、荷物を運ぶドライバーの負担は無視され、それが消費者から評価されると考えたのだろう。同じく「飲食店でスタッフが注文を受けるときに片膝をついて接客します」と情報番組内で紹介されていた。業界の厳しい競争の中で、特徴を持たせようという事なんだらうが飲食店での食事にすぎないのに、客が変な勘違いを起こしそうなサービスだ。この接客姿勢は一定の広がりを見せ、いまも続いているところがある。昔から日本が極端に消費者視点に偏った文化が形成されていると思ってきた。商品を買えば、誰でも消費者になり得るので、そこで優越感を得たいとか優越感に浸らせて商品を買ってもらおうという魂胆。このために、実は職業だと同じ労働者の立場にありながら、客になったとたんに従業員に対して過剰に上下関係を感じる風土が強まっていたのではないか。しかし、労働者不足となりクレーム対応などになり手が減ってきて、従業員を守らなければとカススタマーハラスメント対策が始まった。必要ではあるが、消費者目線優位の社会が生んだ歪みである以上、そこを正さなければ対症療法に過ぎない。一人ひとりが、消費者以外の視点(労働者、有権者)での活動機会を自覚的に増やすこと、相手と対等な立場で契約を結ぼうと努力することに向かってほしいと願っている。(K)

推進力

10年以上前だが、宅配便のサービスとして「スタッフが車を降りてから玄関口まで走って荷物を届けます」とPRするCMがあった。当時は、荷物を運ぶドライバーの負担は無視され、それが消費者から評価されると考えたのだろう。同じく「飲食店でスタッフが注文を受けるときに片膝をついて接客します」と情報番組内で紹介されていた。業界の厳しい競争の中で、特徴を持たせようという事なんだらうが飲食店での食事にすぎないのに、客が変な勘違いを起こしそうなサービスだ。この接客姿勢は一定の広がりを見せ、いまも続いているところがある。昔から日本が極端に消費者視点に偏った文化が形成されていると思ってきた。商品を買えば、誰でも消費者になり得るので、そこで優越感を得たいとか優越感に浸らせて商品を買ってもらおうという魂胆。このために、実は職業だと同じ労働者の立場にありながら、客になったとたんに従業員に対して過剰に上下関係を感じる風土が強まっていたのではないか。しかし、労働者不足となりクレーム対応などになり手が減ってきて、従業員を守らなければとカススタマーハラスメント対策が始まった。必要ではあるが、消費者目線優位の社会が生んだ歪みである以上、そこを正さなければ対症療法に過ぎない。一人ひとりが、消費者以外の視点(労働者、有権者)での活動機会を自覚的に増やすこと、相手と対等な立場で契約を結ぼうと努力することに向かってほしいと願っている。(K)

なんじゃらほいほい

No.407 和井かやの



▲120名が原爆ドーム前で1日も早い核兵器の廃絶を訴えました

日本被団協『ノーベル平和賞』受賞!!

日本被団協は、12月10日、ノーベル平和賞授賞式（ノルウェー・オスロ）の講演で強調しました。ノーベル委員会のフリードネス委員長は、長年の活動を称えるとともに、「今回の受賞を喜びにみ



▲被爆者2名が被爆証言

12・10市民アクションに120名

被爆80年に向けて核兵器のない
平和な世界の実現へ!

2つの希望の光に依拠し

日本被団協のノーベル平和賞受賞のニュースは世界を駆けめぐり、「核兵器のない世界」を願うすべての人々に限らない励ましと勇気を与えました。

「核兵器の保有と使用を前提とする核抑止論ではなく、核兵器は一発たりとも持つてはいけないというのが原爆被害者の心からの願いです」

ピーチで、被爆者は「核兵器によって引き起こされる想像を絶する痛みや苦しみを、自分のものとして実感する手助けをしてくれています」と述べました。この「実感」が世界を動かしてきました。「核破局の瀬戸際」とも言われる厳しい情勢の中、こうした「狂気」を止める希望の光が「核兵器禁止条約」であり、日本被団協の「ノーベル平和賞」受賞です。この2つの希望の光に依拠して、草の根から核兵器廃絶と被爆者支援・連帯の活動を強めることが重要です。

ノーベル平和賞受賞を力に被爆80年に向けて

県被団協と県原水協は、ノーベル平和賞授賞式がおこなわれた10日昼、原爆ドーム前で受賞を祝う「市民アクション」を行い、120人が参加しました。最初に広島のとぐろ協議会が「折り鶴」「ヒロシマの有る国」を熱唱。その後全員で原爆ドームの方を向いて黙祷。県原水協の神部代表理事は、今回の日本被団協の受賞に対して、

に終わらせるのではなく、被爆80年に向けて核兵器のない平和な世界の実現へのあらたなスタートとなることを、みなさんとともに確認したい」と訴えました。5人がリレートークし、被爆者の波田保子さん（88）は「核兵器は人間として死ぬことも生きていることも許さない」「非人道的兵器だ」と告発。黒い雨訴訟をたたかった高東征二さん（83）は、内部被曝は体内で放射線を出し続け、DNAを傷つける、と厳しく警告。県医労連の煙崎さんは、「命を守る医療労働者は二度と戦場には行かない。核兵器にも戦争にも反対する」と決意表明。このほか、民青県委員会の檜谷委員長は青年の立場で、また新婦人県本部常任委員の安藤加奈子さんは女性



▲新婦人の取り組みを報告する安藤加奈子さん

ヒロシマ地域総行動

実行委員会を結成

12月13日、2025年度

広島春闘のヒロシマ地域総行動実行委員会を立ち上げました。会場17人、オンライン22人、合計39人が参加。

冒頭、パスピー廃止後の問題を解決するために署名活動を

冒頭、パスピー廃止後の問題を解決するために署名活動を

冒頭、パスピー廃止後の問題を解決するために署名活動を

の立場でそれぞれ原爆展やアンケートなど核兵器をなくすための活動について報告しました。そして「ノーベル平和賞受賞を力に被爆80年に向けて、核兵器のない平和な世界の実現を」とのアピールを採択。最後にボブ・ディランの「風に吹かれて」をみんなで合唱して終了しました。

福山地区労会議 第35回定期大会開催

地区労会議は11月22日、第35回定期大会を開催しました。各単産からの報告では、例年以上に力が入った討論が展開され、会場は共感の笑いと涙と怒りに包まれました。社長のパワハラと対峙してきた建交労興国産業支部のたたかいは今後の地区労にとって大きな財産となったし、パワハラで退職を決意しながら会社側との交渉に悩み地域労組に加盟した仲間は、「勇気を持ってたたかうことで問題が解決される」と語るなど、今年も充実した大会になりました。

広島県国公第62回定期評議委員会開催

2024年11月23日（勤労感謝の日）広島県国家公務員労働組合共闘会議（広島県国公）第62回定期評議委員会（定期大会）が開催されました。大会では岩田議長（全法務）のあいさつに続き、小柳事務局長（国交労組建設）、楠事務局長（全司法）から運動方針案や予算案などの提案後に、評議員との議論、参加単組の活動報告で議案が補強され、満場一致で承認されました。役員改選では藤原議長（全司法）、辻岡副議長（全法務）、保田事務局長（全労働）、田中事務局長（国交労組建設）のほか9名の役員が新たに選出されました。

スポーツ県労連



その後、2008年から中国ブロッ

頼りになる存在です。（田中）

2024



辻岡 誠二さん

広島県労連幹事・ヒロシマ労連幹事
広島県国公副議長
つじおか せいじ

私が辻岡さんと初めて会ったのは、2004年の頃でした。当時は「沖ヒロ」で沖縄と広島県の県労連の青年（自称含む）同士の交流があった頃で、その頃はまだ組織に勢いがなかったので、広島

ク国公の専従の初代の専従者として辻岡さんを選出。そして、ブロックや県国公の役員や単組内の役員、県労連やヒロシマ労連など永年として幅広く、組合役員として奮闘されています。

2022年もブロック国公の事務局長として山口県国公の立て直しに奮闘されました。私が事務局長に選出されて以降も、永年の中国ブロック国公役員の経験からの様々な助言をいただき

呉地区労連第35回定期大会

呉地区労連第35回定期大会が11月30日（土）に行われ、今後一年間の運動方針を力強く確立しました。大会は、全教の前川代議員を大会議長に選出し、森芳郎呉地区労連議長が挨拶に立ち「総選挙では、裏金問題、大軍拡に国民の怒りが自民・公明政権を過半数割れに追い込む歴史的審判を下した。ひきつづき腐敗政治を一掃し、暮らし優先の政策転換をめざそう。私たちの住む呉市では、日鉄跡地を防衛省が一括購入して軍事拠点にしようとしている。世論の力で押し返そう」と挨拶しました。続いて、神部泰広島県労連議長が来賓挨拶。「いのちとくらし、平和を守る」大会宣言を採択して終了。大会の中でも、防衛省の軍事拠点化のための日鉄跡地一括購入に反対の発言がありました。12月18日には、全国から届いた2万筆に近い「軍事拠点ではなく、平和産業の誘致を」の署名を呉市長宛てに提出しました。

県北地域労連第29回定期大会

県北地域労連の第29回定期大会が11月22日（金）三次健康福祉センターにて開催されました。県労連から植永事務局長が参加。岸泰弘県北地域労連議長の挨拶に続いて、活動のまとめと来年度の方針提起がありました。発言では、県北地域労働相談センターの宮本恒紀さんからは労働相談の取り組み状況の報告。年金者組合の代議員からは「年金の学習会17名が参加。学ぶと怒りがわく。怒りを力に運動をすすめたい。」など発言がありました。その後、全員一致で議案採択され、最後に団結ガンパロウで大会を終了しました。

福山地区労会議 第35回定期大会開催

地区労会議は11月22日、第35回定期大会を開催しました。各単産からの報告では、例年以上に力が入った討論が展開され、会場は共感の笑いと涙と怒りに包まれました。社長のパワハラと対峙してきた建交労興国産業支部のたたかいは今後の地区労にとって大きな財産となったし、パワハラで退職を決意しながら会社側との交渉に悩み地域労組に加盟した仲間は、「勇気を持ってたたかうことで問題が解決される」と語るなど、今年も充実した大会になりました。



▲寺本和男議長のあいさつ